高濱虚子句碑

所在地 新潟県佐渡市吾湯丙 987 本間家(能舞台)庭内

或る時は
江口の月の
さしわたり
虚子

所在地 新潟県新潟市西堀通 3-797 瑞光寺境内

三羽居し春の鴨の一羽居ず

虚子

碑陰
本碑 三羽居し春の鴨の一羽居ず は高浜虚子先生の弔句也
浜口今夜略歴
本名 一郎 正四位勲三等 明治廿六年七月廿三日道州串本町にて
生る 大正七年東京帝国大学卒業 同十一年新潟医科大学助教授
昭和十一年同大學教授 昭和四年中黒みつほ教授と句誌まはぎ発刊
ポトトギス同人 虚子門三羽鴨の一人也 昭和十八年三月一日没
戒名 慈明院天真自性居士
昭和五十三年三月一日 浜口圭吾 建立
高浜虚子先生句碑
十七代友英は在末時代より俳句を趣味とし、高浜虚子等との親交を深めた。昭和二十七年、高浜虚子、星野立子、高野素十等を招き句会を催した折、虚子先生の句
「ある時は江口の月のさしわたり」を句碑とした。

飯稲堂

戦争は

本間家全景
高浜虚子・高野素十・中田みづほ句碑

所在地 新潟県新潟市一番堀通1-1 白山神社 随神門脇

十三夜
明日といふ空美しき
素十
早苗取り今我方に笠丸し
虚子
学問の静かに
雪の降るは好き
みづほ

碑陰
月刊 俳誌 雪
創刊 三週年記念
赤羽 武雄
俳号 岳王
昭和五十四年九月九日建立
高槻 虚子 句 碑

所在地
新潟市新潟市川端六丁
「オクラホテル新潟」横

虚子

千二百七十歩なり　
露の橋　虚子

大正十三年九月虚子先生を新潟に迎へたる時
の先生の句を。新任代橋詰工の昭和四年に御
揮毫くだされしもの　

千二百七十歩なり　
昭和五十三年深秋
新潟俳句倶楽部

虚子
高濱 虚子 句 碑

所在地 新潟県新潟市川端 6-53 「オオクラホテル新潟」横

虚 子

千二百七十歩なり

露 の 橋

碑文

大正十三年九月虚子先生を新潟に迎へたる時
の先生の句を 新万代橋竣工の 昭和四年に御
揮毫くださりしも の 昭和四年十一月 みづほ記

千二百七十歩なり 露の橋 虚子
昭和五十三年深秋

新潟俳句会建之
小河原小葉・喜一句碑

所在地 新潟県阿賀野市水原町外城 瓢湖畔

喜一

笹岡へ

使いに

やられ

暑かりし

白鳥に
この
湖の
今昔

小葉

碑陰 小河原小葉は五頭山麓に生れ、此の町に住み、五頭と此の湖の句を作った喜一は亡き長子である。

小葉に贈られた句がある。
白鳥の来沼の町そこの人 虚子
衣更着道楽とも聞き及ぶ みづほ
萍の小さなる葉と云うことか 素十
二才の小葉が水原を去る日に此の父子の句碑を作った。

友人一同

昭和四十年十月三十日
小河原小菊は五頭山に住み、五頭小菊は五頭山に住む。この町に住み、五頭と此の湖の句を作った事を手紙に送られた句がある。

白鳥の来る沼の町、そこの人、
衣笠着た鶴とも聞き及ぶ

作

七二才の小菊が水原を去る日に此の

父子の句碑を作った

友人一同

昭和四十一年十月三十日
高瀬虚子・年尾・星野立子句入梵鐘

所在地 新潟県長岡市越路町来迎寺甲 1269 安浄寺梵鐘

虚子
遠山に
日の当りたる
枯野哉

年尾
秋風や
竹林一幹
より動く

立子
わも春の
野に下りたてば
紫に

南無阿弥陀仏
経歴

住人

経歴

経歴
高濱 虚子 句碑
所在地 新潟県新潟市味方町 216 「重文 築川邸」庭内

椎 若 葉
掃 き
悠 久 の
人
住 め り
虚 子

所在地 新潟県長岡市渡里町 3-21 西福寺裏庭

楽 し て
山 家 集 あり

西 行 忌
虚 子

碑隠
文字なし
高瀬虚子句・斎藤茂吉歌碑

所在地 新潟県長岡市渡里町3-21 西福寺境内

我心
或時
軽し
芥子の花
虚子

みほとけの大き
なぎきのきは
まりをとはに
ったへてひづき
わたらむ 茂吉

碑陰
寄進人 藤井栄一
母 藤井マサ
古稀
昭和四十六年十一月
当山 廿四世 建立
高瀬虚子句碑
所在地　新潟県上越市園府一里　光源寺境内

昭和二十二年九月二十六日

光源寺にて詠まる

親鸞聖人配下国府
遺跡頭等會
高濱 虚子 句 碑
所在地 新潟県上越市国府 1・4・1 光源寺境内

野菊にも配流のあとゝ 僕ばるゝ 虚子

碑陰
昭和二十一年九月二十六日
光源寺にて詠まる

昭和三十四年六月二十八日之建
親鸞聖人配下 国府
遺跡顕彰会
略歴

十四・四日整合

十四年合於

十四日合於
高瀬虚子句碑

所在地：長野県千曲市礒部新戸倉1012-5　和田忠之助氏宅　玄関前

虚子

冬山路

俄にぬくき

ところあり

碑陰

昭和五十八年癸亥春建立

南星

としお

落葉焚く言葉少年き山の人

南星

所在地：長野県千曲市上山田　千曲川万葉公園内

虚子

春雨や　すこし燃えたる

手提灯

碑陰

文字なし
高濱 虚子 句碑

所在地 長野県小諸市八幡町 八幡神社境内

虚子
立科に
春の雪
今うごき居り

所在地 長野県小諸市与良町 小諸野岸幼稚園近くの路傍

秋晴の
浅間
仰きて
主客あり
虚子

碑陰
文字なし
高濱 虚子 句入 墓 碑

所在地 長野県小諸市与良町 小山家（古久清食堂）墓域

崇 高 院 實 山 良 悟 居 士
崇 德 院 實 修 妙 悟 大 姊

右側面
大正十五年三月二十一日没
与良清左衛門美直事
卒年七十五歳

左側面
昭和十二年三月十六日没
与良清左衛門美直妻よめ事
御弔し新浦七左衛門歌 年八十五歳

裏面

盆供養 彼岸 詣りを 忘らず 虚子

永 徳 院 悟 道 兼 心 居 士
永 照 院 悟 室 貞 心 大 姊

右側面
昭和三十七年三月二十九日没
故小山兼一事
卒年六十九歳

左側面

裏面

小山兼一事の林檎園に
あるを

虚子

木と人と

心通ひて

剪定す
高濱 虚子 句碑
所在地 長野県小諸市与良町 5-3 路傍

風花に
山家住ひも
早三年
虚子

人々に
虚子
更に紫苑に
名残あり

（注）紫苑の苑は草苑に苑となっている

所在地 長野県小諸市与良町 虚子旧居 庭内

虚子

碑陰

贈 小山志ま来寿
平成元年十月吉建之
姬 характеристика

宣統 王政憲達達 蘇州図 北亜班 ～ オュテ

非課

上階

御使

姬 характеристика 薬師堂 屋根〜 正日 ～ トキ

御使
高濱 虚子 句碑
所在地 長野県小諸市 懐古園内 千曲川寄りの土手

紅 梅 や
旅 人 我 に
なつかしき

虚子

碑陰
高濱虚子句碑建立実行委員会
長 野 ホトトギス俳句会
平成元年三月十二日建之

所在地 長野県小諸市 チェリーパークライン（車坂峠への道）路傍

遠山に日の当りたる枯野哉

虚子

左側面
小諸駅まで十三・〇軒
高濱 虚子 句碑
所在地 長野県小諸市 チェリーバークライン(車坂峠への道) 路傍

山国の蝶を荒しと思はずや 虚子

左側面
車坂峠まで五・三竿

所在地 長野県小諸市 チェリーバークライン(車坂峠への道) 路傍

連峰の高嶺ここに夏の雲 虚子

右側面
小諸駅まで十五・〇竿
照片说明：

照片中显示了一块岩石，上面有刻字。岩石上刻着“19**年**月**日”，可能是时间标记。岩石的形状和表面状况显示出自然风化和侵蚀的痕迹。

环境描述：

照片的背景是自然的户外环境，周围有树木和植被，显示出这是一个自然的环境。岩石的纹理和周围的植物相互映衬，形成了自然的景观。

具体信息如下：

- 日期：19**年**月**日
- 摄影者：不详
- 环境：自然户外
- 主要物体：岩石

高濱虚子句碑

所在地 長野県佐久市日田町 稲荷山公園内

虚子

冬晴や

八ケ岳を見

浅間を見

碑陰

文字なし

(注) 木碑には昭和三十六年十一月二十日建とする
高瀬夫子句碑
所在地：長野県更埴市姨捨
長楽寺入口
更級や姨捨山の月ぐこ
作
今朝は
虚子

新割る音や
月の宿

所在地：長野県更埴市姨捨
姨捨公園入口（駅より下方百メ

虚子

作
高瀬夫子先生句碑
建立者：門弟

昭和五十七年十月一日建立

和田南星

虚子

作

建立者：門弟

昭和五十七年十月一日建立

和田南星

虚子

作

建立者：門弟

昭和五十七年十月一日建立

和田南星

虚子

作
高浜虚子句碑
所在地 長野県千曲市 八幡姫捨 4984 長楽寺入口

更級や姨捨山の月ぞこれ

虚子

碑陰
高浜虚子先生句碑建立者門弟 警在萃果
和田南星
昭和五十七年十月一日建立
贊助者御芳名(左からの横書き)30名列記(略)

所在地 長野県千曲市 八幡姫捨公園入口(駅より下方百米)

虚子

今朝は
早
薪割る音や

月の宿

碑陰
建立者 小野寛一郎
妻さとみ

贊助者
長野県議会議員 倉石徹郎
更 城 市 長 稲玉貞雄
更城市議会副議長 大日方実
昭和五十七年九月二十二日
石工 綾川和夫
高濱 虚子 句碑
所在地 長野県茅野市北山蓼科 「蓼科観光ホテル」前

昭和十四年九月二十四日一遊

虚子

山々のをとこぶり見よ甲斐の秋
やまの日は暑しといへど秋の風
はふをよぶ娘や高原の秋すみて

碑隣
昭和十五年九月建之
発起者 北 山 同 人
後援者 矢 崎 哲 夫
信濃ホトトギス会
高瀬虚子句碑
星野立子句碑
所在地
長野県岡谷市梅原町
無観公園入口

みづうみに突出て　豊の鉢田故　
虚子

碑記
星野立子先生 昭和二十一一年十月二十一日
この地にてこの句をあり護持して記念とする
昭和四十六年八月三日
岡谷市

秋雨の讃訪湖見下ろす最合象
立子

碑記
星野立子先生 昭和二十一一年十月二十一日
虚子
ここに同行されてこの時あり
昭和五十六年四月八日
岡谷市
高濱虚子句碑・星野立子句碑

所在地 長野県岡谷市塩尻町 塩尻公園入口

みづうみに突出て 豊の稲田裁

虚子

碑陰
高濱虚子先生 昭和二十一年十月二十一日
この地にてこの咏あり建碑して記念とする
昭和四十二年八月二十日 岡谷市

秋雨の 諏訪湖見下ろす 最合傘

立子

碑陰
星野立子先生 昭和二十一年十月二十一日尊父虚子先生と
ここに同行されてこの吟あり 勤して記念とする
昭和五十六年四月八日 岡谷市
高浜虚子句・岡崎歌・加藤犀水句・窪田空穂歌碑
所在地 長野県北安曇郡池田町会染柳沢 山中

山 茂み 遺徳 譲べて 仰く かな 八十叟 犀水
池田ひと愛て見はやさむ我手もて
みとりとなせるときは木の山 空穂
木をそたて林となして人々の
ためはかりけるところは 麓

こそ

大粒の雨になりけりほとぎす 虚子

碑陰 山を愛し木を育てよう我郷士の先輩は早く植林に意を注ぎ明治三十三年組合を作り大峰林沢の広表三百二十九町歩に亘り業を起して治山治水と鄉土振興の為め百年の大計を樹てらる爾来局に當る者皆其伝統を承け従業を継ぎて五十年補植管理を怠らず目的を達したことは郷党の感激に堪えない処近年時代の要求に応じて半は伐採せられたが美材は祖国復興の資となり郷土の文化を向上せしむる推進力となった願に創剣当面参画した委員は池田町村 小澤海造
松田寅次郎 窪田様左衛門 田中時弥 市川文八 関恒司 市川今朝一郎
上原久三 平林庄太郎 上原一郎 窪田竹司 伊藤新十郎 平林由太郎中島
区 矢口常蔵 矢口弥五衛 三澤平次 牛越長造 牛越常太郎 太田卯吉半在
家區 相澤千治 今津栄司 浅田平次 浅田泰次郎の諸氏であった 小澤松田
両氏は当時池田町村の理事者で先見の明あって常に組合の中樞となり艱苦を傾け指指導宜しきを得たと捧げられ今これら先人の遺徳を忍び従業を讃え将来の
希望と覚悟を新にしてここ風光明媚の地を選び記念の碑を建てる
昭和二十四年十一月之を建つ
町村染村植林組合管理池田町長 塩島卓蔵

桂川正雄誌

下段に歴代管理 歴代組合の人々の氏名が列記されている
高瀬虚子句碑
所在地：静岡県富士宮市六日白川の渓畔センター前
虚子

花見にと
馬に鞍を置く
心あり

虚子

の句は昭和三十三年四月十四日高瀬虚子白川の瀬
及駒止の横狭間神社などを訪ね折の旅路である。

昭和三十七年十一月二日建立

建設委員代表
堤井一住

多数の氏名列記（略）

建立者富士宮市役所
同供人有志

贊助者

高濱 虚子 句 碑
所在地　静岡県富士宮市原 615 「白糸の滝レストセンター」前

虚 子

花 見 に と

馬 に 鞍 置 く

心 あ り

碑陰

碑面の
花見にと馬に鞍置く心あり　虚子
の句は昭和三十三年四月十四日高濱虚子白糸の滝
及駒止の桜浅間神社などを訪ねし折の旅吟である
　高 濱 年 尾

昭和三十七年十一月三日建之
建立者富士宮市役所
同 俳人有志

贊助者
多数の氏名列記（略）
建設委員代表　堤俳一佳
高浜虚子 句碑

所在地 静岡県富士宮市沼久保 JR沼久保駅前（身延線）

高浜虚子

とある停車場富士の裾野で竹の秋
ぬま久保で降りる子連れの花の姥

碑陰

碑面の二句は昭和三十三年四月十三日下部温泉に於て催された裸子百号記念大会へ出席のため立子、はん、青邨、越央子ら十五名と共に入峡の途次、沼久保に於て詠まれた句である。白糸の滝の句碑の句は翌十四日富士宮を訪れた折の句であり共の当時のことば虚子の「身延行」及び「句日記」などに詳述されてある

建立者代表 堺一佳

昭和四十四年四月八日 富士宮裸子会建之

奨助者

多数の氏名列記（略）
この碑は、富士塚に登る階の数を示しています。

ある停車場の富士塚に至る階の数の数を示しています。

ぬま久保で降りる子連れの花の節

富士塚の数を示しています。
高瀬虚子 千葉胤明 佐佐木信綱 窪田空穂 伊藤茂吉
尾上紫舟 萩之森

所在地：静岡県伊東市物見が丘

仏壇に鍾楼の梵鐘

昭和二十三年一月铸造
伊東市仏現寺常住代

三世の仏
平和の鐘新铸のことは

新しき國に
つかさり

朝ゆふに打つ鐘の音
朝ゆふに打つ鐘の音

初日のぼる
初日のぼる

やろきの春来
やろきの春来

山寺や
山寺や

寒からす
寒からす

小寺に住
小寺に住

寂ねたりて
寂ねたりて

みね座にあれば
みね座にあれば

あつきの
あつきの

おもひ空しき
おもひ空しき

大寺のかね
大寺のかね

思い出
思い出

かね
かね

初日はのぼる
初日はのぼる

二月結縁の日
二月結縁の日

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仏実院

仏実院
仌
高浜虚子・斎藤茂吉・尾上柴舟・佐佐木信綱・
窪田空穂・千葉胤明歌句入梵鐘

所在地 静岡県伊東市物見が丘2-30 佛現寺鐘楼の梵鐘

とろきて消え
ゆく鐘に
明けくれの
ことろ寄すらむ
伊豆の国人

空穂
朝ゆふに打つ鐘の音
はあまひづき地ひづ
き永遠にひづきわ
たらむ

茂吉

新しき國に
つくさむ
むつみあひ
ともにはたらき
共に
栄えて
昭和廿三年
三月毎祭の日
八十五才 胤明

初日のぼる
一 天 四 海
やはらきの春来
まいたる
初日はのぼる

信綱

南無妙法蓮華経 日蓮

平和の鐘
新鋳のことば
（省略）
三世の仏
みな座にあれば
寒からず

山寺や
ｃおさこなひの
鐘霞む
虚子

寝ねたりて
おもひ空しき
あかつき
の
ころにひぐく
大寺のかね

八郎

昭和二十三年一月鋳造
伊東市佛現寺常什
日鴻代
高濱 虚子文学碑
所在地 静岡県伊東市大室山 桜の里公園内

人生とは何か
私は唯月日の運行
花の開落鳥の去来
それ等の如く人も亦
生死して行くといふ
ことだけ承知して
あります

虚子

高浜 虚子文学碑

人生とは何か
私は唯月日の運行
花の開落鳥の去来
それ等の如く人も亦
生死して行くといふ
ことだけ承知して
あります

虚子

俳誌みちのく創刊四十周年記念に
伊東市の賛同を鉢これを建てる
平成二年六月二日

俳誌みちのく主宰

原 田 青 児
【高濱虚子句碑】
所在地：静岡県伊東市広野2-4-1「よねわか荘」入口

ほととぎす
伊豆の
伊東の
いでゆ
これ
虚子

碑陰
昭和二十六年八月
建之
寿々木米若

所在地：静岡県伊豆市修善寺町修善寺 修善寺梅林内

北に富士南に我家梅の花 虚子

碑陰
昭和辛巳二月建 沐芳
（注）辛巳＝16年
草摘みし ホトトギス
今日の野いたみ
夜雨来る
虚子

元旦の犬屋しか 虚子
御門哉

所在地 静岡県浜松市下池川町27-1 天林寺墓地 久野家墓域 周りの畑

碑陰
文字なし

所在地 静岡県天竜市青谷（あおや） 青谷不動尊 報恩園内

永き日の
われらが為めの
観世音
虚子

碑陰
昭和四十六年春
虚子先生句碑
鈴木幸平建之
高濱虚子句碑

所在地 富山県南砺市福野町御蔵町 1328 篠塚しげる氏宅庭内

虚子

この庭や

樫の落葉の

とこしなへ

碑陰

昭和三十二年九月建之

篠塚 半 木

しげる

所在地 富山県南砺市福野町新町 792 西源寺境内

立山の其連峰の雪解水 虚子

碑陰

由 緒

昭和三十二年四月当福野町に故高濱虚子先生をお迎えし富山県ホトトギス大会を開催 そのときに吟詠された御句がこれである我等が郷土の自然を誇とし更に花鳥讃詠に精進すべく之を建立す

昭和六十年五月

福野花鳥俳句會

伊藤柏翠書
高浜虚子句碑

所在地　富山県南砺市福光町遊部40　日の出屋製菓産業(株)事務所前

立山の柿山の味鰤の味　虚子

碑陰　文字なし

所在地　富山県南砺市福光町荒町　栖霞園（地帯）内

蜻蛉のさら／～流れとどまらず　虚子

左側面

大正十三年九月十六日　栖霞山荘ニ於テ吟詠　昭和廿九年六月　福光俳句會
高瀬虚子句碑
所在地　富山県富山市八尾町東葛坂　城ケ山公園　旧城址東南端

見ゆる哉
提灯に　虚子
落花の風の

左側面
大正十二年九月　発 四名 起 列記
二百十日会建之　者（略）

裏面
二十一名列記（略）
略

之

之年

之

略

略
高濱 虚子・年尾句碑

所在地 石川県金沢市中川除町 緑地公園（犀川畔）

虚子

北国の時雨日和やそれが好き

年尾

秋深き

犀川ほとり

蝶とべり

碑陰
あらうみ会

壁の副碑

高濱虚子は明治大正昭和の三代にあたり常に俳壇最高峰の指導者として花鳥詠詠を提唱し「ホトトギス」を主宰没後その息高濱年尾がこれを継承している この句碑の句は

北国の時雨日和やそれが好き

虚子

秋深き犀川ほとり蝶飛べり

年尾

共に金澤来遊の折の作である
昭和四十六年十月
あらうみ会
高瀬虚子句碑
所在地　石川県河北郡内灘町鶴ケ丘2-308　内灘中学校 玄関前

東西南北
星の流る
夜なりけり
虚子

碑陰
虚子内灘を訪る昭和三十一
十月四日より立子真砂子晴子
餅花の血縁竹女外あらうみの
諸氏八十余名参加虚子微恙の
為朝辞離用意の船に乗船され
ず車にて大根布北端を回り役
場に引返る秋天下の白山
立山連峰に嵐の染渓に興味を
もたる帰路新農道を徐行する
車の虚子の歯に荒蕪原野が野
菊が花芒が如何に映りしか
汀人記

左側面
昭和三十七年三月　寄贈　東陽織物
高濱 虚子 句碑
所在地 石川県七尾市中島町中島7-92 大森市呉氏宅 後庭

虚子
ここに
来て
今宵
蛙の
声に
眠る

碑陰
昭和二十四年四月
御来遊

所在地 石川県七尾市和倉温泉 弁天崎公園内

家持の妻恋舟か
虚子
春の海

碑陰
俳界の巨星高濱虚子翁昭和二十四年
四月二十六日能登路に来遊和倉に一泊せらる
本連盟は之を記念すべく翁に揮毫を求め
和倉温泉組合の協力により句碑を建立す
昭和二十四年八月十四日 能州文化連盟
高浜虚子の句碑

天平進時代の頃に訪れた飯縄の宮司の大伴保持
は高浜虚子の句碑のあった場所を訪れた。虚子は保持が
その句碑を愛し、その句に親しんだ。保持の句碑の近くに
高浜の句が刻まれており、虚子の句を読むと、現実
の世界を愛することが示唆されている。

栃持の島立

栃持の句碑を

栃持の句碑を

栃持の句碑を

栃持の句碑を
高濱虚子句碑

所在地　石川県輪島市鶴亀（つげし）丁139　永福寺門内

虚子

能登言葉

親しまれつつ花の旅

碑陰

輪島市　有志一同
昭和廿九年七月　蝸牛会
能登ホトトギス会

所在地　石川県輪島市輪島　一木松公園内

虚子

能登言葉

親しまれつつ

花の旅

碑陰

昭和廿四年四月除幕
　蝸牛会